

夏休み真っ只中、子どもたちは、それぞれの家庭や地域で学校ではできない様々な体験をしている頃でしょう。先生方は、2学期以降の学級づくりをじっくり構想することができると思います。気持ちのよいスタートを切るためには、休み明け初日に子どもたちをどのように迎えるかはとても大切です。一人一人の子どもを思い浮かべながら2学期スタートに備えましょう。

<小学校>

夏休み明け、2学期のスタートが大事だと分かっているけど…

☆たくさんのお土産があるし、次の行事の準備もしなくちゃ。とにかく忙しい。
☆夏休み中のがんばりを認めたり、思い出を発表したりするにはどうしたら？



夏休み明けの子どもの話を 聞く場面を工夫しましょう

中・高学年

充実した夏休みだったことを自覚させ、2学期へのやる気を引き出す活動にしましょう。

例1 1分間スピーチ…自由研究や作品を紹介しながら、がんばった点を発表し合います。教師も含め、聞く側は短いコメントを書いて渡します。グループだと持ち時間を増やせます。

例2 夏休みの思い出報告…カードに書いた各自の夏休みの思い出を黒板に貼ります。教師が似た内容をまとめて並び替え、子どもたちに発表させます。番外編コーナー、質問コーナー等も設定し、全員が発表できるようにします。

長期休み終了に憂うつ感をもたせない！

夏休みになったばかりとっていると、お盆の風が吹いて、休みも残りわずかですね。教員もそう感じるのですから、子どもたちはそれ以上に感じていることでしょう。宿題をためてしまった子もクラスにいるかもしれません。休み明けの学校生活を気持ちよくスタートするためには、始業式当日の雰囲気づくりを大切にしたいものです。

①教室に、朝のすがすがしい空気を入れる。

(前日に廊下も含めて換気しておきたい)

②2学期の見通しがもてる掲示物を用意する。

(1学期の学級反省も大切な手だてです)

③児童生徒一人一人は、休み中のどんな活動でどんな達成感を得ているのか、子どものことばをしっかりと受け止める。

(旅行等の体験だけでなく、日々の生活での試みや頑張りを大いに認める)

元気な姿で再会できることは幸せなことです。

<中学校>

生徒が教師に心をひらく時

朝学活が始まった8:30。副担任が昇降口で遅刻者の指導をしていると、玄関前に一台の車が停まっています。運転席にいる母親は、頬をふくらませ、助手席の生徒に何やら話をしていますが、生徒はうつむいたままで、なかなか車から降りてきません。生徒は、先日の学年会で学校を休みがちであることが報告されていたA君でした。

こんな場面で、「どうしましたか？」と、ひと声かけてもらったら、母親は救われた気持ちに、A君自身は抱えている不安や緊張が緩むでしょう。「ゆっくり話していきませんか？」と投げかけ、担任や養護教諭に連絡するなど、タイミングを逃さずに対応することが大切です。

連絡を受けた担任や養護教諭は、母親とA君に対して、安心して話せる時間、場所、相談者を設定し、母親とA君の「困り感」をありのままに受け入れる姿勢を示します。このような対応の中で、A君は先生に話してみようと思うでしょう。

予防的な生徒指導で臨む！

「始業式、生徒達はどんな顔で登校するかな？」

担任の先生は、昨年の2学期や今年4月の生徒の欠席状況を再確認してみましょう。予め対応を考え、動いてみませんか？

予防的な対応例

<初日から休みがちなA生へ>

残暑見舞いハガキにて、受容的な内容のメッセージを伝えておく。

<宿題が滞りがちなB生へ>

部活動や家の手伝いなど、この休みに本人ががんばったことの情報や、顧問や保護者から収集し、休み明けに良さを認めるなどのコミュニケーションをとれる準備をしておく。

<3日連続休んでしまったC生へ>

時には、みやげにアイスキャンディー等を2つ買って家庭訪問し、一緒に過ごすことも。暑いときには生徒の心に伝わるものです。